

IR資料

-2024年3月期-

2024年05月10日

ニプロ株式会社



目次

事業の概況	2
2023 年度 業績	3
販売費および一般管理費 主要科目	4
販売費および一般管理費 補足	5
販売費および一般管理費 研究開発費	6
設備投資額・減価償却費	7
為替影響を除いた損益比較	8
為替感応度	9
事業セグメント別 売上高・営業利益	10
セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）	11
セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）	12
セグメント業績 - ②医薬関連事業	13
セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業	14
セグメント別・製品群別の売上高	15
セグメント別・地域別の売上高	16
製品分類表	17
製商品別売上高	18、19
通期予想	20、21

事業の概況

製造・購買・物流

2023年度のダイアライザライン(インド、秋田大館、中国合肥)の新設は下記。

2024年3月に中国合肥工場の4ライン目、10月に秋田大館工場の10ライン目新規稼働、2025年4月に秋田大館工場の11ライン目稼働予定。

2023												2024												2025			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
	インド ダイアライザ 4ライン目 新規稼働	大館 第5工場 火災発生 ダイアライザ生産ライン 一部損傷							大館工場 ダイアライザ 8ライン目 新規稼働					合肥工場 ダイアライザ 4ライン目 新規稼働	大館工場 ダイアライザ 9ライン目 新規稼働			大館工場 FBダイアライザ 7ライン目 新規稼働			大館工場 ダイアライザ 10ライン目 新規稼働						大館工場 ダイアライザ 11ライン目 新規稼働

販売

- 透析用医療機器 : ダイアライザは欧米にて大型案件の獲得、アジアではシングルユースの拡大により、販売増加。透析センターは中南米にて拡大。
- バスキュラー関連製品 : 国内独占市場であった薬剤溶出バルーンが、他社参入による影響により、販売が減少。
- SD関連製品 : HeartMate3が適応拡大により、引き続き堅調に推移。
- 自社医薬品 : 経口剤はネキシウムAG販売が好調、注射剤は不採算再算定品目の薬価UPで大きく伸長。
- 受託医薬品 : 日本では顧客の在庫調整によって経口剤が前年対比で減少したが、注射剤は受注増加により、販売が増加。
海外はJMIファーマの販売が堅調に推移。
- ファーマパッケージング : 生地管は欧州、米国にて円安の影響と販売価格へのコスト転嫁により、販売が増加。
米国のバイアル、欧州のシリンジ、アンプルの需要増により、販売が増加。

臨床試験

臨床試験の実施や承認申請への大きな影響はなし

ニプロファーマ大館工場における米国食品医薬品局（FDA）製造所認証取得

受託製造品である凍結乾燥製剤の抗菌薬注射剤において、米国への供給を目的として製造ラインの整備を進め、2024年1月の実地査察を経て、FDAから本製品の製造に関する認証を取得。ニプロファーマにおけるFDA認証は、鏡石工場に次ぐ2工場目である。

2023年度 業績

	2022年度	2023年度	増減額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想 (達成率)	2023年度 11月時点 通期予想 (達成率)	2024年度 通期予想
売上高	5,451.9	5,867.8	+415.8 +7.6%	5,992.4 97.9%	5,992.4 97.9%	6,450.0
売上原価	3,817.4	4,154.6	+337.1 +8.8%	4,194.6 99.0%	4,199.1 98.9%	4,525.0
売上総利益 (※1)	1,634.4 30.0%	1,713.2 29.2%	+78.7 +4.8%	1,797.7 95.3%	1,793.3 95.5%	1,925.0 29.8%
販売管理費	1,457.2 26.7%	1,489.8 25.4%	+32.6 +2.2%	1,557.7 95.6%	1,553.3 95.9%	1,600.0 24.8%
営業利益	177.2 3.3%	223.3 3.8%	+46.0 +26.0%	240.0 93.0%	240.0 93.0%	325.0 5.0%
経常利益 (※2)	153.4 2.8%	195.0 3.3%	+41.6 +27.1%	206.5 94.4%	206.5 94.4%	276.0 4.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	45.7 0.8%	111.0 1.9%	+65.3 +142.9%	112.0 99.1%	112.0 99.1%	158.0 2.4%
IFRSに準拠した場合の 当期純利益(概算額)	62.7	136.1	+73.4 +117.1%	133.0 102.3%	133.0 102.3%	182.0 4.0%

2022年度	四半期別業績推移				2023年度 4Q
	2023年度				
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,272.3	1,405.9	1,452.7	1,532.7	1,476.5
売上原価	886.2	975.3	1,025.3	1,070.0	1,084.0
売上総利益	386.1 30.3%	430.6 30.6%	427.4 29.4%	462.7 30.2%	392.5 26.6%
販売管理費	317.4 24.9%	357.2 25.4%	365.9 25.2%	373.9 24.4%	392.8 26.6%
営業利益	68.7 5.4%	73.3 5.2%	61.5 4.2%	88.8 5.8%	△ 0.3 △0.0%
経常利益	81.1 6.4%	89.0 6.3%	58.3 4.0%	52.8 3.4%	△ 5.1 △0.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	37.3 2.9%	40.9 2.9%	58.4 4.0%	26.9 1.8%	△ 15.2 △1.0%

●売上高

国内では医薬ネキシウムAGの販売好調と不採算再算定による注射剤の薬価上昇により、販売が増加。海外では医療機器が中国で販売軟調だが、その他地域では好調、ファーマパッケージは欧米で生地管の販売が増加。

●売上総利益

国内では業績連動に伴う決算賞与が対前年で増加、欧州での物価上昇に連動した賃金増にて労務費が増加、継続的な設備投資による償却費の増加、電力料金の増加により、売上総利益率は前年対比で減少。

●営業利益

海外のコンテナ費用の低下による運送費減少と研究開発費の抑制により、営業利益率は前年対比で増加。

●経常利益

為替差益4.3億円増加と前年は欧州子会社でインフレーション会計適用による営業外費用を計上したため、経常利益率は前年対比で増加。

●当期純利益

子会社の持分譲渡損16.7億円発生するも、政策株式の売却益が17.2億円増加。また、前年には繰延税金資産の取り崩し等による税調整額を計上していたため、前年対比で増加。

(※1) 売上総利益への未実現利益の影響額
2022年度 △6.8億円
2023年度 4.7億円

(※2) 為替損益
2022年度 +21.2億円
2023年度 +25.5億円



販売費および一般管理費 主要科目

単位:億円	2022年度	2023年度		増減	増減率	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
		実績	構成比					
人件費	400.0	481.8	32.3%	+81.8	+20.5%	474.2	504.2	514.5
研究開発費(※1)	212.9	186.5	12.5%	△26.4	△12.4%	190.5	170.8	190.0
運送費	210.1	140.9	9.5%	△69.2	△32.9%	186.4	140.0	176.4
償却費(※2)	124.6	133.8	9.0%	+9.2	+7.4%	115.3	132.0	132.8
販促費(※3)	99.5	90.9	6.1%	△8.6	△8.6%	102.0	102.0	96.5
旅費交通費	36.9	43.8	2.9%	+6.9	+18.7%	47.2	53.0	52.2
保管料	34.9	38.5	2.6%	+3.6	+10.3%	35.3	35.3	32.0
上記以外の科目	337.7	373.3	25.1%	+35.6	+10.6%	406.6	416.0	405.6
合計	1,457.2	1,489.8	100.0%	+32.6	+2.2%	1,557.7	1,553.3	1,600.0

(※1) 研究開発費・試験研究費・開発償却費

(※2) 減価償却費・のれん償却費

(※3) 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・交際接待費

- **人件費** 海外では円安影響と従業員の増加、国内では業績連動に伴う決算賞与が対前年で増加により、前年対比で81.8億円増加。
- **研究開発費** 前年対比で26.4億円減少。主な要因は次スライドにて説明。
- **運送費** 海外におけるコンテナ運賃等が2022年末から低下したことにより、前年対比で69.2億円減少。
- **償却費** ネキシウムAGのライセンス償却費などにより、前年対比で9.2億円増加。
- **旅費交通費** コロナ影響緩和に伴い対面での営業活動や出張を徐々に再開していることにより、前年対比で6.9億円増加。
- **上記以外の科目** 次スライドにて主な増加要因を補足説明。

販売費および一般管理費 補足

	2022年度	2023年度		増減	増減率	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
		実績	構成比					
支払手数料	68.9	73.9	5.0%	+5.0	+7.2%	62.6	67.0	99.9
賃借料	49.0	51.4	3.5%	+2.5	+5.0%	60.6	51.0	61.4
租税公課	26.5	26.3	1.8%	△0.2	△0.8%	19.4	7.3	15.7
貸倒引当金繰入額	14.4	16.2	1.1%	+1.8	+12.4%	6.7	4.5	12.4
会議費	7.3	7.6	0.5%	+0.3	+3.8%	9.2	9.2	2.4
その他	171.6	197.9	13.3%	+26.3	+15.3%	248.1	276.9	213.8
合計	337.7	373.3	25.1%	+35.6	+10.5%	406.6	416.0	405.6

単位:億円

- **支払手数料** 社内利用のクラウドサービスや新本社のネットワークの保守料、裁判や特許関連費用の増加により、前年対比で5.0億円増加。
- **賃借料** 国内医療機器、医薬品物流倉庫の移転・拡大により、前年対比で2.5億円増加。
- **租税公課** 控除対象外消費税減少により、前年対比で0.2億円減少。
- **会議費** 新型コロナ影響の緩和に伴い対面での会議が再開され始めたことにより、前年対比で0.3億円増加。

販売費および一般管理費 研究開発費

	2022年度	2023年度	増減 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想 (進捗率)	2023年度 11月時点 通期予想 (進捗率)	2024年度 通期予想
単位:億円						
医療	90.4	87.3	△3.1 △3.4%	88.1 99.1%	81.2 107.5%	101.6
医薬	119.2	95.8	△23.4 △19.6%	99.5 96.3%	86.5 110.8%	85.0
ファーマ パッケージング	3.3	3.1	△0.2 △6.1%	2.9 106.9%	3.1 100.0%	3.4
合計	212.9	186.5	△26.4 △12.4%	190.5 97.9%	170.8 109.2%	190.0

- **医療** 前年は冠動脈用薬剤溶出ステントに係る治験費用を計上していたため、今年は前年対比で3.1億円減少。
- **医薬** 前年は各種治験の実施が多かったことにより、前年対比で23.4億円減少。
- **PP** 新たなガラス製品の開発費用については、前年対比で0.2億円減少。

設備投資額・減価償却費

	設備投資額							減価償却費					
	2022年度	2023年度	増減額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想 (進捗率)	2023年度 11月時点 通期予想 (進捗率)	2023年度 2月時点 通期予想 (進捗率)	2024年度 通期予想	2022年度	2023年度	増減額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想 (進捗率)	2023年度 11月時点 通期予想 (進捗率)	2024年度 通期予想
単位：億円													
医療関連	445.8	336.5	△109.3 △24.5%	197.1 170.7%	306.8 109.7%	381.7 88.2%	384.0	224.6	291.1	+66.5 +29.6%	252.6 115.2%	265.4 109.7%	318.1
医薬関連	233.5	316.5	+83.0 +35.5%	277.0 114.3%	162.1 195.2%	277.0 30.0%	103.0	133.6	150.3	+16.7 +12.5%	154.9 97.0%	147.5 101.9%	156.1
ファーマパッケージング	155.6	144.5	△11.1 △7.1%	96.3 150.1%	96.3 150.1%	131.3 110.1%	125.0	54.7	63.7	+9.0 +16.5%	60.4 105.5%	63.7 100.0%	67.7
その他	124.8	63.6	△61.2 △49.0%	50.9 125.0%	56.1 113.4%	59.8 106.4%	12.0	49.6	55.0	+5.4 +10.9%	55.7 98.7%	58.0 94.8%	56.2
合計	959.9	861.3	△98.6 △10.3%	621.3 138.6%	621.3 138.6%	849.8 101.4%	624.0	462.7	560.3	+97.6 +21.1%	523.6 107.0%	534.6 104.8%	598.1

(※) 今年度より、設備投資額の表示形式を検収ベースから計上ベースに変更しております。

●設備投資額

医療は大館工場のダイアライザの新棟への投資が250億円、GLP-1需要増に伴う増産投資27.5億円等計上し、総額では336.5億円となった。

医薬はニプロファーマで前年度に引き続き、近江工場新設費用185億円や伊勢工場シリンジラインの増設費16億円、埼玉工場のQCセンター新設の費用16億円を計上。全星薬品工業は和泉工場の包装ライン新設によって36億円、JMIファーマは注射剤新製造棟で9億円計上。総額では316.5億円となった。

ファーマパッケージングはNPGで51億円、NPFで30億円、NPAで22億円、NPHで17億円等計上、総額では144.5億円となった。

その他は埼玉医薬品研究所の新設費用で42億円、情報システムで12億円等計上、総額では63.6億円。

●減価償却費

医療は大館工場のダイアライザ新棟、GLP-1需要増に伴う増産投資分を新たに計上し、前年対比で66.5億円増加。

医薬は来年度の設備投資費用を抑制し償却費の増加も抑える見込み。

PPは来年度の償却費の増加額を4.0億円に抑える見込み。

為替影響を除いた損益比較

	2022年度	2023年度	為替の影響 (※)	影響を除いた 2023年度	増減率
	[a]	[b]	[c]	[d=b-c]	[d÷a]
売上高	5,451.9	5,867.8	+164.4	5,703.4	+4.6%
売上原価	3,817.4	4,154.6	+84.8	4,069.8	
売上総利益	1,634.4	1,713.2	+79.6	1,633.6	△0.0%
(%)	30.0%	29.2%		28.6%	
販管費	1,457.2	1,489.8	+40.6	1,449.2	
営業利益	177.2	223.3	+39.0	184.3	+4.0%
(%)	3.3%	3.8%		3.2%	
営業外収益	73.0	89.4	+4.3	85.1	
営業外費用	96.8	117.6		117.6	
経常利益	153.4	195.0	+43.3	151.7	△1.1%
特別利益	57.7	78.7		78.7	
特別損失	43.4	81.6		81.6	
税引前利益	167.7	192.1	+43.3	148.8	△11.3%
法人税等	108.4	70.4	+15.9	54.5	
非支配株主に 帰属する純利益	13.6	10.6		10.6	
当期利益	45.7	111.0	+27.4	83.6	+82.9%

期中平均レート	2022年 1~12月	2023年 1~12月	期末レート	2022年 3月	2022年 6月	2022年 9月	2022年 12月	2023年 3月	2023年 6月	2023年 9月	2023年 12月	2024年 3月
1 USD	136.85	141.20	1 USD	122.39	136.68	144.81	132.70	133.53	144.99	149.58	141.83	151.41
1 EUR	140.83	153.17	1 EUR	136.70	142.67	142.32	141.47	145.72	157.60	158.00	157.12	163.24
1 中国元	19.81	19.87	1 中国元	19.26	20.38	20.37	19.01	19.42	19.94	20.46	19.93	20.83

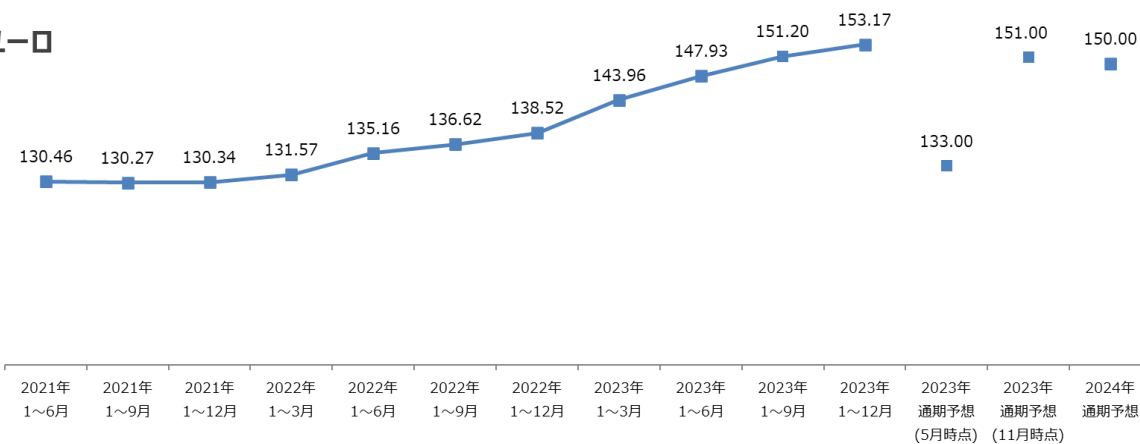
為替感応度

【1円変動による年間影響額】

	(億円)		
	ドル	ユーロ	元
売上高	9.1	5.3	18.9
営業利益	0.8	1.9	10.0

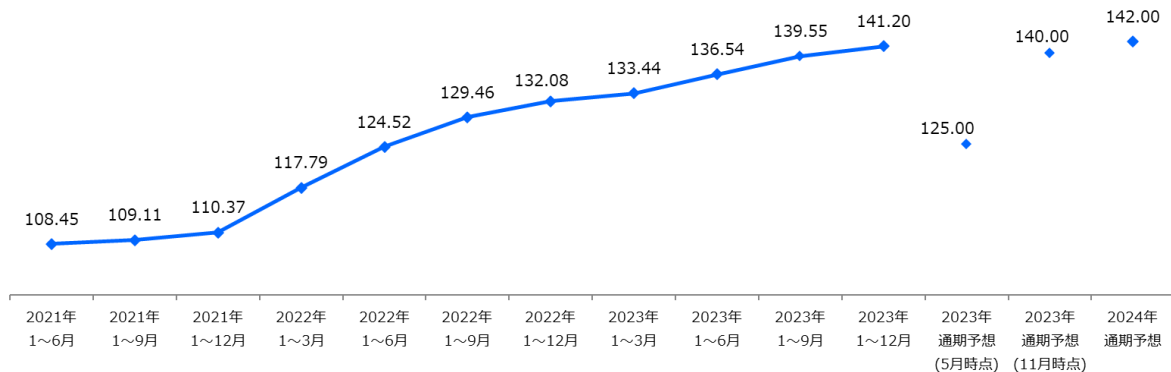
【期中平均レート】

ユーロ

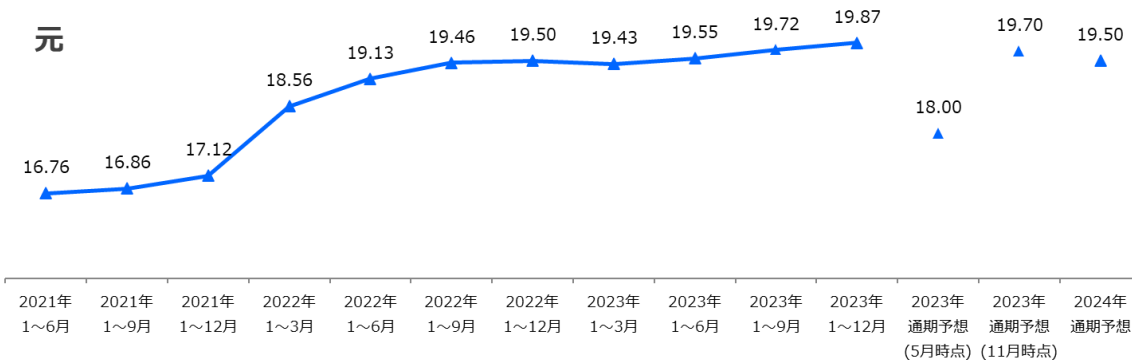


【期中平均レート】

ドル



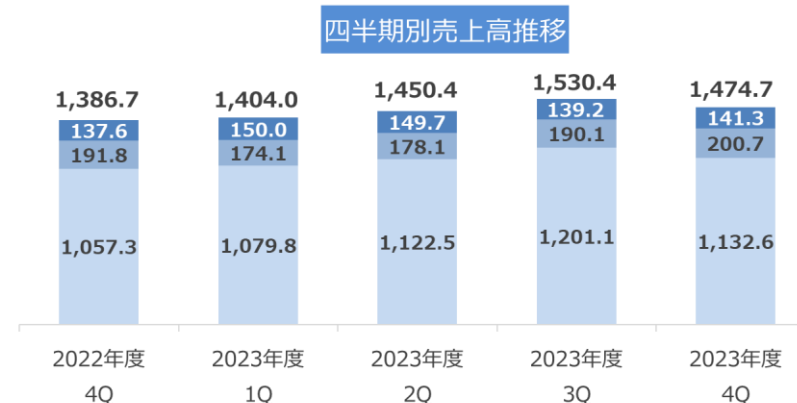
元



事業セグメント別 売上高・営業利益

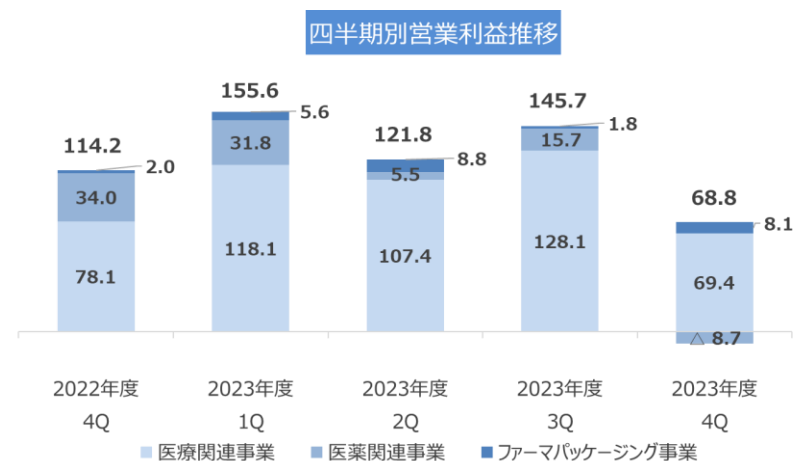
単位：億円

売上高	2022年度	2023年度	増加額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
医療関連事業	4,199.5	4,536.1	+336.6 +8.0%	4,602.0	4,664.9	5,013.0
医薬関連事業	727.3	743.2	+15.9 +2.2%	797.0	715.0	812.5
ファーマパッケージング事業	517.5	580.3	+62.8 +12.1%	589.1	608.1	618.2



単位：億円

営業利益	2022年度	2023年度	増加額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
医療関連事業	385.9	423.2	+37.3 +9.7%	433.1	453.4	471.0
医薬関連事業	56.1	44.3	△11.8 △21.0%	71.7	36.0	90.3
ファーマパッケージング事業	27.3	24.5	△2.8 △10.3%	23.2	23.4	26.0



●医療関連事業

労務費、償却費が増加するも、国内医薬のネキシウムAG販売好調と注射剤不採算再算定品目の薬価上昇、海外での販売好調により、営業利益は前年対比で増加。

●医薬関連事業

コスト増を価格転嫁したものの、廃棄により、営業利益が前年対比で減少。

●ファーマパッケージング事業

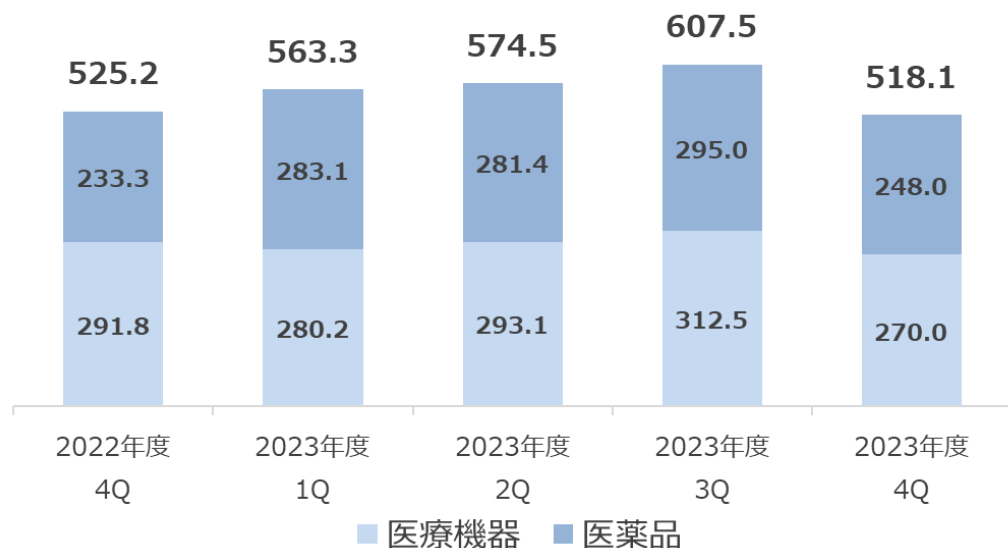
売上は増加するも、労務費、原材料費、償却費の増加により、営業利益は前年対比で減少。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）

単位：億円

売上高	2022年度	2023年度	増加額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
国内事業	2,168.1	2,263.6	+95.5 +4.4%	2,423.6	2,325.0	2,367.0
医療機器	1,194.8	1,156.0	△38.8 △3.2%	1,314.1	1,215.5	1,194.0
医薬品	973.3	1,107.6	+134.3 +13.8%	1,109.5	1,109.5	1,173.0

四半期別売上高推移



●医療機器

ダイアライザはHDFフィルターの販売増加により、前年対比で3.5億円増加。

透析機器は設置案件の減少により、前年対比で9.3億円減少。

輸液関連製品は価格改定により、前年対比で9.3億円増加。

検査製品は上海ロックダウンの影響で減少していた真空採血管の販売数量が増加したことで、前年対比で4.9億円増加。

SD関連製品はHeartMate3の適応拡大に伴う販売増加により、前年対比で10.0億円増加。

バスキュラー関連製品は日本で国内独占市場であった薬剤溶出バルーンに対して他社参入による影響を受け、前年対比で47.5億円減少。中国では売上を医療（国内）管轄の子会社から医療（国際）管轄の子会社への移管により、前年対比で13.0億円減少。

●国内医薬

経口剤はネキシウムAGを中心に販売数量好調であり、その他既存品が薬価減少の影響により販売が減少をするも、全体では前年対比で67.7億円増加。

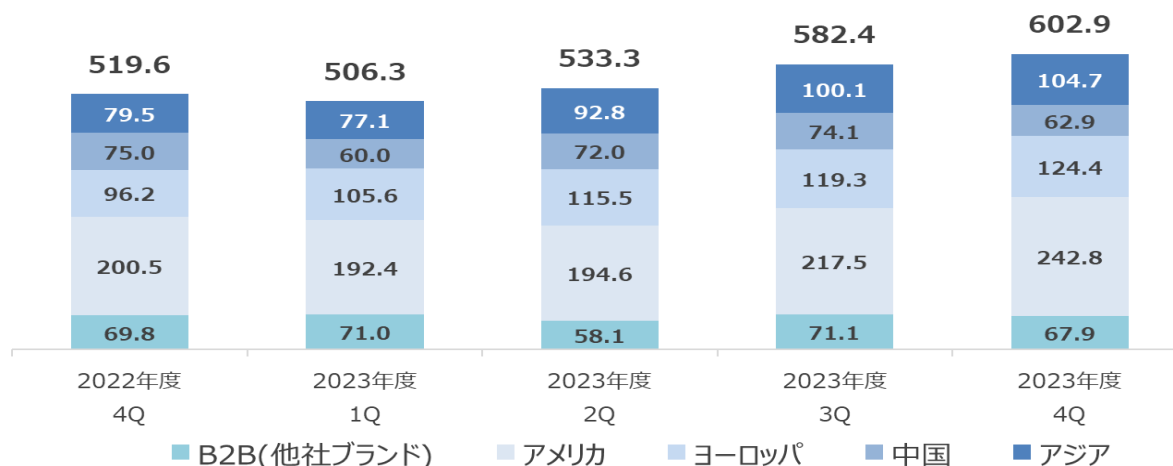
注射剤は抗生物質製剤や輸液製剤において、不採算再算定品目の薬価が上がったことで、前年対比で37.1億円増加。

その他・体外診断薬等は昨年10月に販売開始したSARSコロナウイルス抗原キットの販売増加により、前年対比で12.6億円増加。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）

売上高	2022年度	2023年度	増加額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
国際事業	1,982.8	2,225.0	+242.2 +12.2%	2,114.3	2,284.9	2,594.0
B2B(他社ブランド)	261.5	268.4	+6.9 +2.6%	291.9	310.2	312.5
ニプロブランド	1,721.2	1,956.6	+235.4 +13.7%	1,822.4	1,974.7	228.1
アメリカ	775.8	847.4	+71.6 +9.2%	797.6	853.8	997.0
ヨーロッパ	370.9	465.0	+94.1 +25.4%	396.5	440.6	469.5
アジア	306.9	374.9	+68.0 +22.2%	357.5	396.4	447.0
中国	269.2	269.2	+0.0 +0.0%	270.7	283.7	368.0

四半期別売上高推移



● B2B

欧州におけるGLP-1需要増に伴うインスリン針の販売好調により、前年対比で6.9億円増加。

● ニプロブランド

ダイアライザは欧米で大型案件や入札を獲得し、アジアではシングルユースの需要が増えたため、前年対比86.5億円増加。

米州ではカナダでのワクチン用シリンジの特需終了や、コロナ影響緩和により、手袋が販売減少するも、円安影響に加えて、北米での大型案件、中南米での透析センター、メキシコでの透析液の販売拡大により、前年対比で71.6億円増加。

欧州では円安影響に加え、セーフタッチPSVの販売増加や、トルコ等での大型入札獲得により、前年対比で94.1億円増加。

アジアでは円安影響に加え、透析機器、シュアフューザーの販売増加により、前年対比で68.0億円増加。

中国では中国当局による公立医院に対する国産装置優遇購買政策によって、透析機器の販売が減少するも、透析センター拡大により前年対比で横ばい。

セグメント業績 - ② 医薬関連事業

単位：億円

売上高	2022年度	2023年度	増加額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
医薬関連事業	727.3	743.2	+15.9 +2.2%	796.9	715.0	812.5
ジェネリック品	387.3	381.3	△6.0 △1.5%	402.6	305.3	347.0
先発品・長期収載品	224.6	251.2	+26.6 +11.8%	305.6	294.7	334.9
OTC・原薬・試作等	58.9	47.4	△11.5 △19.5%	33.0	55.8	63.5
JMIファーマ	56.4	63.0	+6.6 +11.7%	55.7	58.9	67.0

● ジェネリック品

経口剤は顧客の在庫調整による受注減や受託契約の終了により、前年対比25.9億円減少。

注射剤は需要増加による受注増と価格転嫁が進んだことにより、前年対比25.0億円増加。

外用剤は品目の受託終了に伴う受注減により、前年対比で5.0億円減少。

● 先発品・長期収載品

経口剤は顧客の在庫調整に伴う受注減により前年対比で7.3億円減少。

注射剤は需要増加による受注増と価格転嫁が進んだことにより、前年対比で35.6億円増加。

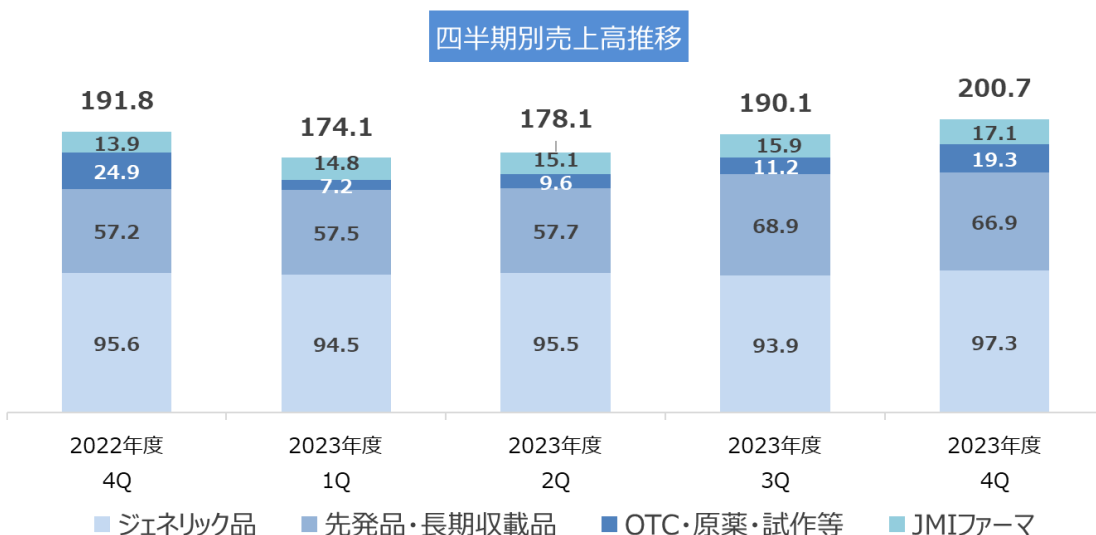
外用剤は品目の受託終了により前年対比で1.7億円減少。

● OTC・原薬・試作等

前年はバリデーション費用や設備の一時金収入が増加していたため、前年対比で11.5億円減少。

● JMIファーマ

JMIファーマでは医師へのプロモーション強化、慢性疾患製剤への注力により、現地通貨ベースでは前年対比で20.0%増加したが、為替変動の影響により、日本円ベースでは前年対比で11.7%増加に留まった。



セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業

単位：億円

売上高	2022年度	2023年度	増加額 (増減率)	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想	2024年度 通期予想
ファーマパッケージング事業	517.5	580.3	+62.8 +12.1%	589.1	608.1	618.2
日本	118.1	131.2	+13.1 +11.1%	124.1	127.2	140.4
海外	399.3	449.0	+49.7 +12.4%	464.9	480.8	477.7
ヨーロッパ	208.7	251.7	+43.0 +20.6%	251.5	267.5	289.9
アメリカ	123.3	141.3	+18.0 +14.6%	136.2	144.2	147.5
中国	51.3	43.0	△ 8.3 △ 16.2%	57.5	51.5	19.4
インド	15.8	12.9	△ 2.9 △ 18.4%	19.6	17.5	20.8

●日本

輸液関連製品はインジェクションセットの市場シェア拡大により、前年対比で6.4億円増加。注射針類は他社向け製品の販売増加により、3.3億円増加。

●海外

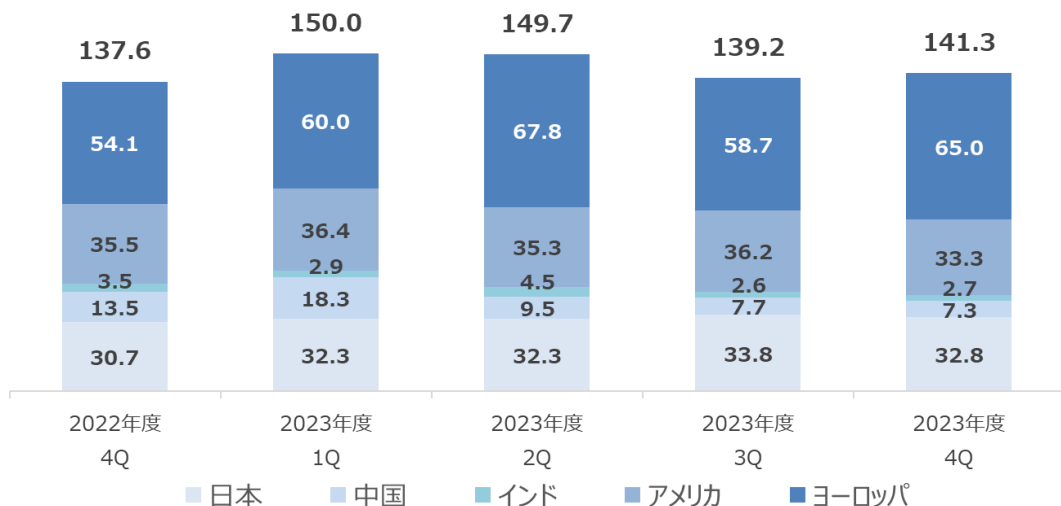
欧州ではアンプルが競合他社の販売製品見直しの影響により、前年対比で13.1億円増加。生地管は販売価格への原価高の価格転嫁と受注増により、前年対比で9.4億円増加。シリンジ硝子は高付加価値品の滅菌シリンジの販売増加により、前年対比で12.2億円増加。

米国ではバイアルが高単価商品の販売増により、前年対比で10.4億円増加。生地管が販売価格への原価高の価格転嫁できたことにより、前年対比で7.3億円増加。

中国では生地管がワクチン用バイアルの需要減少に伴う販売減少により、前年対比1.5億円減少。バイアル硝子は利益率の低いバイアルの生産・販売の段階的な収束により、前年対比5.9億円減少。

インドでは生地管が顧客の在庫調整や顧客との契約終了により、前年対比で3.7億円減少。

四半期別売上高推移



セグメント別・製品群別の売上高

セグメント 製品	単位：億円	医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパッケー ジング事業	その他 事業	合計
医療機器	2023年度	3,295.8	0.0	41.1	0.0	3,337.0
	2022年度	3,122.0	0.0	34.0	0.0	3,156.0
医薬品	2023年度	1,239.1	743.2	7.0	0.0	1,989.4
	2022年度	1,076.5	727.3	4.2	0.0	1,808.1
ファーマ パッケージング	2023年度	1.0	0.0	530.6	0.0	531.7
	2022年度	0.6	0.0	477.0	0.0	477.6
その他	2023年度	0.0	0.0	1.4	8.1	9.6
	2022年度	0.3	0.0	2.2	7.5	10.1
合計	2023年度	4,536.1	743.2	580.3	8.1	5,867.8
	2022年度	4,199.5	727.3	517.5	7.5	5,451.9

(※1) 自社ジェネリック医薬品

(※2) 受託製造医薬品

(※3) 注射針類、輸液関連製品、検査製品

セグメント別・地域別の売上高

地域	セグメント	単位：億円	医療関連事業	医薬関連事業	ファーマパッケージング事業	その他事業	合計
日本	2023年度		2,228.7	677.2	131.8	8.0	3,046.0
	2022年度		2,107.8	667.7	118.6	7.5	2,901.7
海外計	2023年度		2,307.3	65.9	448.4	0.0	2,821.8
	2022年度		2,091.6	59.5	398.9	0.0	2,550.2
アメリカ	2023年度		945.1	0.0	134.9	0.0	1,080.1
	2022年度		860.1	0.0	120.7	0.0	980.8
ヨーロッパ	2023年度		519.6	△ 0.6	253.1	0.0	772.0
	2022年度		477.1	1.1	204.6	0.0	682.9
中国	2023年度		320.2	0.2	43.1	0.0	363.5
	2022年度		334.2	0.2	50.3	0.0	384.7
その他アジア	2023年度		522.3	66.3	17.2	0.0	606.0
	2022年度		420.1	58.2	23.1	0.0	501.5
合計	2023年度		4,536.1	743.2	580.3	8.1	5,867.8
	2022年度		4,199.5	727.3	517.5	7.5	5,451.9

●地域別

地域別売上高比率は国内51.9%、海外48.1%であり、いずれの地域でも販売は堅調。

●セグメント別

国内医療機器はカテーテル類、透析機器の販売が減少。一方で医薬品はネキシウムAGの販売好調と注射剤不採算再算定品目の薬価上昇により、販売増加。国際医療機器は円安の影響と欧米のダイアライザ、欧州におけるGLP-1需要増に伴うインスリン針の販売が増加。

医薬関連事業は、海外はJMIファーマの販売が堅調に推移。日本では経口剤が顧客の在庫調整に伴う受注減により、販売減少したものの、注射剤の受注回復により、全体では増加。

ファーマパッケージング事業は生地管が欧州、米国にて円安の影響と販売価格へのコスト転嫁により、販売増加。米国のバイアル、欧州のシリンジ、アンプルの需要増により、販売増加。

製品分類表

医療機器区分	
ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
透析機器	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
その他透析関連	血液回路、AVFニードル（翼付留置針） 他
注射針類	PSVニードル（翼付留置針）、セーフタッチニードル 他
バスキュラー関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
輸液関連製品	輸液セット、IVカヌラ 他
検査製品	ネオチューブ、採血針 他
糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
SD関連製品	補助人工心臓、人工肺、整形外科製品
その他	医療器械、血液関連製品、培養商品、手袋 他
医薬品区分	
経口剤	経口剤
注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW、粉末透析剤、透析液 他
外用剤・貼付剤	外用剤、貼付剤
その他・体外診断薬 等	診断薬、医薬品、血糖測定器 他
ファーマパッケージング区分	
生地管関連	医薬用生地管、非医療用生地管、硝子原料
アンプル硝子	アンプル（シングルチップ、ダブルチップ）
バイアル硝子	バイアル（ブローバック、スクリュー、滅菌済等）
シリンジ硝子	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
ゴム栓・栓体類	ゴム栓、栓体、栓・キャップ類
プラスチック容器	プラスチック品
魔法瓶	魔法瓶用硝子
その他	硝子容器その他、特殊硝子容器、カートリッジ硝子その他など

製商品別売上高（1）

単位：億円		全社				海外				日本			
		2022年度	2023年度	増減額	増減率	2022年度	2023年度	増減額	増減率	2022年度	2023年度	増減額	増減率
[医療機器]	ダイアライザ	863.0	952.8	+89.7	+10.4%	639.8	725.8	+85.9	+13.4%	223.1	227.0	+3.8	+1.7%
	透析機器	224.9	238.6	+13.7	+6.1%	139.7	162.6	+22.9	+16.4%	85.1	75.9	△9.2	△10.8%
	その他透析関連	465.8	544.8	+79.0	+17.0%	383.7	460.4	+76.7	+20.0%	82.1	84.4	+2.3	+2.8%
	透析関連製品計	1,553.7	1,736.2	+182.5	+11.7%	1,163.3	1,348.9	+185.5	+16.0%	390.4	387.3	△3.0	△0.8%
	注射針類	486.3	477.1	△9.2	△1.9%	326.0	311.2	△14.7	△4.5%	160.2	165.8	+5.5	+3.5%
	バスキュラー関連製品	351.7	309.9	△41.7	△11.9%	70.0	63.8	△6.2	△8.9%	281.6	246.1	△35.5	△12.6%
	輸液関連製品	181.2	216.8	+35.5	+19.6%	69.3	89.0	+19.6	+28.4%	111.9	127.8	+15.8	+14.2%
	検査製品	119.8	122.4	+2.6	+2.2%	84.8	85.0	+0.1	+0.2%	34.9	37.4	+2.4	+6.9%
	糖尿病関連製品	89.0	113.3	+24.3	+27.4%	75.8	98.8	+23.0	+30.4%	13.2	14.5	+1.3	+10.3%
	SD関連製品	72.2	86.4	+14.2	+19.7%	15.3	19.5	+4.2	+27.9%	56.8	66.8	+9.9	+17.6%
	その他	297.9	267.2	△30.6	△10.3%	182.5	158.2	△24.3	△13.3%	115.4	109.0	△6.3	△5.5%
部 門 計	3,152.2	3,329.8	+177.6	+5.6%	1,987.3	2,174.7	+187.3	+9.4%	1,164.9	1,155.1	△9.7	△0.8%	
[医薬品(自社)]	経口剤	432.8	500.6	+67.8	+15.7%	0.4	0.5	+0.1	+30.0%	432.4	500.1	+67.7	+15.7%
	注射剤・輸液	482.0	554.9	+72.8	+15.1%	100.0	128.3	+28.2	+28.3%	381.9	426.5	+44.5	+11.7%
	外用剤・貼付剤	66.5	68.5	+2.0	+3.0%	-	-	-	-	66.5	68.5	+2.0	+3.0%
	その他・体外診断薬 等	95.1	115.0	+19.8	+20.9%	2.9	2.7	△0.1	△6.8%	92.1	112.2	+20.0	+21.8%
	部 門 計	1,076.5	1,239.1	+162.6	+15.1%	103.4	131.6	+28.2	+27.3%	973.1	1,107.5	+134.4	+13.8%
[再生医療]	再生医療等製品	3.8	7.1	+3.3	+85.9%	-	-	-	-	3.8	7.1	+3.3	+85.9%

製商品別売上高（2）

単位：億円		全社				海外				日本			
		2022年度	2023年度	増減額	増減率	2022年度	2023年度	増減額	増減率	2022年度	2023年度	増減額	増減率
【医薬品(受託)】	経口剤	310.5	277.5	△33.0	△10.6%	0.4	0.4	0.0	△2.8%	310.0	277.0	△33.0	△10.7%
	注射剤・輸液	270.6	333.9	+63.2	+23.4%	1.4	4.4	+3.0	+205.7%	269.1	329.4	+60.2	+22.4%
	外用剤・貼付剤	48.1	42.0	△6.0	△12.6%	0.5	0.4	0.0	△13.8%	47.6	41.6	△6.0	△12.6%
	その他・体外診断薬 等	45.8	33.7	△12.0	△26.3%	0.6	△2.4	△3.1	△496.8%	45.1	36.2	△8.9	△19.7%
	部 門 計	675.1	687.2	+12.1	+1.8%	3.0	2.8	△0.2	△6.7%	672.0	684.3	+12.3	+1.8%
【医薬品(JMIP)】	経口剤	55.9	62.3	+6.4	+11.4%	55.9	62.3	+6.4	+11.4%	-	-	-	-
	注射剤・輸液	0.4	0.6	+0.1	+35.0%	0.4	0.6	+0.1	+35.0%	-	-	-	-
	部 門 計	56.4	63.0	+6.5	+11.6%	56.4	63.0	+6.5	+11.6%	-	-	-	-
【ファーマ パッケージング】	生地管関連	117.7	129.7	+12.0	+10.2%	94.9	106.8	+11.8	+12.5%	22.7	22.9	+0.1	+0.7%
	アンプル硝子	67.2	81.9	+14.7	+21.9%	67.0	81.7	+14.7	+21.9%	0.1	0.2	0.0	+31.6%
	バイアル硝子	168.8	177.2	+8.3	+4.9%	151.8	158.4	+6.6	+4.4%	17.0	18.7	+1.6	+9.9%
	シリンジ硝子	61.4	73.1	+11.7	+19.1%	61.1	73.0	+11.9	+19.5%	0.3	0.1	△0.1	△47.8%
	ゴム栓・栓体類	17.9	18.5	+0.5	+3.3%	5.7	5.7	0.0	△0.2%	12.2	12.8	+0.6	+5.0%
	プラスチック容器	18.4	18.4	0.0	+0.0%	0.0	0.0	0.0	+86.1%	18.4	18.4	0.0	△0.0%
	魔法瓶	4.2	5.6	+1.4	+34.0%	-	-	-	-	4.2	5.6	+1.4	+34.0%
	その他	21.7	26.9	+5.2	+24.0%	18.4	23.2	+4.8	+26.1%	3.2	3.6	+0.4	+12.4%
	部 門 計	477.6	531.7	+54.1	+11.3%	399.1	449.0	+49.9	+12.5%	78.4	82.6	+4.1	+5.3%
【その他】	生産機械販売・不動産賃貸	10.1	9.6	△0.4	△4.7%	0.7	0.4	△0.2	△37.0%	9.3	9.1	△0.2	△2.2%
連結合計		5,451.9	5,867.8	+415.8	+7.6%	2,550.2	2,821.8	+271.6	+10.7%	2,901.7	3,046.0	+144.2	+5.0%

通期予想 - ① 医療関連事業

医療関連事業

内訳	単位：億円	2023年度 実績	2024年度 通期予想	増減額	増減率
国内 医療機器		1,156.0	1,194.0	+38.0	+3.3%
医薬品		1,107.6	1,173.0	+65.4	+5.9%
国際 B2B		268.4	312.5	+44.1	+16.4%
アメリカ		847.4	997.0	+149.6	+17.7%
ヨーロッパ		465.0	469.5	+4.5	+1.0%
アジア		374.9	447.0	+72.1	+19.2%
中国		269.2	368.0	+98.8	+36.7%
工場 直接販売		47.6	51.9	+4.3	+9.1%
売上高計		4,536.1	5,013.0	+476.9	+10.5%
営業利益		423.2	471.0	+47.8	+11.3%
(同率)		9.3%	9.4%	-	-

● 売上高

国内の医療機器について、一般消耗品は引き続き価格転嫁を進め、主要製品のシェアアップと総合医療ネットワークシステムの拡充をはかる。バスキュラー関連製品は薬剤溶出バルーンの適応拡大による売上回復とPTCAバルーンの販売増加を見込み、前年対比で38.0億円増収予想。

国内の医薬品について、薬価改定があるもネキシウムAGの販売自体は引き続き堅調に推移。販売構成の見直しや新製品の上市を進めて、収益力の改善をはかる。出荷能力の増強もあり、前年対比で65.4億円増収予想。

米州では、米国大手透析プロバイダー向けダイアライザの契約更新により、大幅増加見込み。大館工場の新型ライン稼働開始により、供給能力も十分に確保。透析装置の新製品上市とあわせて、今期増収のドライバ市場となり、前年対比で149.6億円増収予想。

欧州では、高付加価値製品の販売拡大を核に事業を拡充。前年対比で4.5億円の微増となっているが、B2Bビジネスの伸長を含めた欧州市場全体では大幅増収予想。

アジアでは、重点戦略市場と位置付けし、透析関連製品、ホスピタル製品、感染対策製品の拡充をはかり、前年対比で72.1億円増収予想。

中国では、透析関連製品の集中購買化に対応して販売数量増加見込み。透析センターの拡大もあわせ、前年対比で98.8億円増収予想。

全般的には生産能力の増強をベースとして国内外、特に海外市場での販売を大きく伸ばす計画となっている。

● 営業利益

原材料高騰の価格転嫁も進める一方でコストダウンを精力的に推進。高付加価値製品へのシフトと生産能力増強に伴う生産性向上により、収益力の強化を図り、営業利益率を改善し、前年対比で増益予想。

通期予想 - ② 医薬関連事業・ファーマパッケージング事業

医薬関連事業

内訳	単位：億円	2023年度 実績	2024年度 通期予想	増減額	増減率
GE品		381.3	347.0	△34.3	△9.0%
先発・長期収載品		251.2	334.9	+83.7	+33.3%
OTC・原薬他		47.4	63.5	+16.1	+34.0%
JMIファーマ		63.0	67.0	+4.0	+6.3%
売上高計		743.2	812.5	+69.3	+9.3%
営業利益		44.3	90.3	+46.0	+103.8%
(同率)		6.0%	11.1%	-	-

ファーマパッケージング事業

内訳	単位：億円	2023年度 実績	2024年度 通期予想	増減額	増減率
日本		131.2	140.5	+9.3	+7.1%
ヨーロッパ		251.7	289.9	+38.2	+15.2%
アメリカ		141.3	147.6	+6.3	+4.4%
中国		43.0	19.4	△23.6	△54.9%
インド		12.9	20.8	+7.9	+61.2%
売上高計		580.3	618.2	+37.9	+6.5%
営業利益		24.5	26.0	+1.5	+6.1%
(同率)		4.2%	4.2%	-	-

●売上高

GE品は一部製剤の受託終了により、前年対比で34.3億円減収予想。

先発・長期収載品では、新規製剤の受託により、前年対比で83.7億円増収予想。

OTC・原薬他では、バリデーションや設備の一時金収入の増加により、前年対比で16.1億円増収予想。

JMIファーマでは、医師へのプロモーション強化、慢性疾患製剤への注力により、前年対比で4.0億円増収予想。

●営業利益

製造原価高騰によるコスト増を製品への価格転嫁により、営業利益率は改善する予想。

●売上高

日本市場は、引き続き高付加価値のデバイスおよび部材関連の増加により、前年対比で9.3億円増収予想。

欧州では、ドイツのD2Fシリンジやフランスの生地管の販売増加を見込み、前年対比で38.2億円増収予想。

米国では、バイアルおよび生地管の生産能力増加に伴う販売増。顧客の在庫調整も一巡して、前年対比で6.3億円増収予想。

中国では、前年の吉林に引き続き合弁子会社の整理を進めるため、前年対比で23.6億円減収予想。

●営業利益

売上高は増加予想だが、労務費の増加と窯の冷修等の設備維持費用増加により、増益は限定的。営業利益はほぼ横ばいの予想。



本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。
実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。